貸家案内

加藤營業所
白銀町（電話三二〇番）

字田町一	商人向	二五、〇〇〇
白銀町會社向		四〇、〇〇〇
全商人向		二六、〇〇〇
全		二三、〇〇〇
仲間町勤人向		四、五〇〇
全柳町		六、〇〇〇
全		七、五〇〇
全		八、〇〇〇
全		八、八〇〇
全		八、五〇〇
全		一二、〇〇〇
全		七、五〇〇
全		八、〇〇〇
全二ノ九長橋町	商人向	八、〇〇〇

御料理仕出し
うどん　そば
天　ぷら
鰻　蒲　燒
まつ屋

初秋の御用意品案内

合着シャツとして確かに皆様より歡迎を受けるスムースシャツは肌觸り滑かで且實用品であります
並時　壹圓五拾錢
大時　壹圓八拾錢
綿ネルと本ネルのワイシャツ

中折帽子
鳥打帽子
中山帽子
子供帽子

新柄種々陳列致しました
ツルヤ
電話百四十番

蒲鉾賣出し廣告

夏期氷水販賣中は御引立に預り豫期以上の盛況を見て終了するに至つた事を厚く御禮申上げます。今回氷水販賣終了と同時に例年の如く蒲鉾製造を開始致しましたから倍舊の御用命の程懇願致します。

蒲鉾　（材料精選、風味絶佳）
さつまあげ　（お土産品として籠入一個六十錢外數種何れも体裁優美）

御大典記念全國商工博覧會於銀盃受領
藤市蒲鉾店
平町二丁目
電話三〇五番

名畫修羅王姉妹編

安艶政記

◇……子米井酒艶妖……演主……郎五部河八超◇

◇蛙の子はやはり蛙りとして終るべきものかうらあ……

◇四日ヨリ爆彈的特別大興行

◇松竹キネマ獨特映畫
巨星　原作
野村芳亭　主演
艶麗　松井千枝子

淺草行進曲

春よ！春！行交ふ人の足音にも詩の情緒が流れて居る此處は赤き灯の海、人歡樂に醉ふ……淺草のタベ……

獨唱界の名星
松下京子孃
特別出演

◇松竹下加茂熱血編
主演市川松之助、泉春子
劍及　降魔

土曜日
一デ生高級
常設
電四六六

日活松竹名畫集

高久病院

院長　醫學士　高久忠
副院長　新潟醫學士　赤羽清
藥局長　藥劑師　佐竹菊雄
平町田町　電話五一三番

家庭講座

兒童に及ぼす童話の感銘（四）

仙台放送局の講演速記
川崎小鳥講述

よく童話は飽迄も教育的なものでなければならない又は、童話に教育を入れてはならない等と面倒な議論が屢々起ります、而し私は是れは別段問題ではなからうと思ふのであります。

何故となれば、我々が父として、また母として、自分の子供を熱愛し、その健全なつゝがなき成長を、神かけて祈ると云ふ立場から子供に與ふべき『愛の贈り物』が童話であると致しましたなれば、子供をより善き人間に導く力が、そこにこもつて居ればこそ童話が童話として價値づけられるものでありまして、子供の教養を害する樣な、不純な分子か含まれて居りまする非教育的なものは、童話としての必要が全々ないのであります、言を代へて申しまするなれば、童話は特有の教育的効果を發輝しますればこそ、存在價値があるのでありまして、若し夫れが非教育的なものであつたとすれば、存在價値がないのであります、もつと解り易く申しますれば、教育的であるから『童話』と申す事が出來るのでありますが、其反對に非教育的であるとすれば、夫れは童話の價せものであつて眞の童話と申す事は出來ないのであります。

此意味より致しまして童話と教育の關係は餘りに明らか過ぎる問題であつて、教育内容の有無等と云ふ樣な事に就いては、議論の餘地がないと申さねばなりません。

（續く）

祝五週年

平町會議員一同

福島縣石城郡平町五丁目
東部電力株式會社
平營業所

和洋銅鐵
金物問屋
久釜屋商店
平町五丁目
電話長九番　一三九番

平藝妓屋組合

三橋竹二久山三谷玉
島之葉形好
家亭家家屋本家子川口

榮野米叶林品福仲湖開吉
野
家花月家清澤家家京口家

常磐毎日新聞

十月三日日曜日刊

定價　一部金貳錢　一ヶ月拾錢（郵稅五厘）
廣告　五號十二字詰一行（五十錢）
休刊日　毎月一日（祝日ノ翌日）
大祭日　福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社　電話六〇番三

日刊　發行兼編輯人　川崎文治
印刷人　本社ト同番地　印刷所　常磐毎日印刷所（電話六三〇番）

注射しての歸途……桐谷元磐中校長卒倒

應急手當の効なく

病勢募り危篤の狀態

本縣社會課長を辭してから中町に餘生を送つてゐた元磐城中學校長桐谷文平氏は一日午後四時頃同町私立平陽女學校で神經痛リウマチス專門の診療をしてゐる宇都宮市今泉町上竹濟生院長市會議員上竹善三氏に注射してもらひ歸宅する途中胡摩澤幽靈橋際にて突然卒倒し同町多丸旅館に擔ぎ込まれ附近の有馬醫師の應急手當を受け酒井醫師、大森、清水兩醫師等の加療を受けてゐるが病勢募り目下危篤の狀態である

注射の醫師と主治醫との間にごたゝく

桐谷氏は數年前輕微な腦溢血を起して職を辭し平町酒井醫師の治療を受け漸次回復したので私立平陽女學校の名譽校長に擧げられてゐたのだが注射した上竹院長と主治醫の酒井醫師その他の間にごたゝくが起き同時にいろゝのうはさが傳はり醫師界の問題にならうとしてゐる

注射の中毒でないと上竹醫師の申譯

右につき注射した上竹院長は語る「注射藥は中毒するやうなことは絶對にない、自分も通知により多丸旅館に行つて來たが腦溢血の再發で注射藥の中毒ではなかつた、ところが主治醫の酒井醫師と大森、清水兩醫師等が何藥を注射したかわからないうちは治療は出來ないといつて注射藥を質問されたが自分は發表を避け妹を看護に殘して歸つて來たがこれまで二十五ケ年餘に何萬人と注射したが中毒したことは絶對にないのである」

注射藥を明かにせず

對應療法に困ると酒井醫師語る

又主治醫の酒井醫師は語る「上竹君が來たから注射藥を訊いたが自製の藥で發表出來ないといふから大森、清水兩君を呼んで立會を求め注射藥を知らないで投藥中毒した場合は自分等の責任になるから治療出來ないといつたところ上竹君に輕い傷炎劑で藥局法によるものだといつたから治療してゐる、病名が腦溢血であることは疑ひない注射のため再發したかどうかは斷言出來ないが上竹君の話では町内に開業してゐる吉田醫師を通じて注射藥を知らせるといつてゐたからそれまで待つてゐるわけですが血壓が低くなつてゐた患者が注射後間もなく腦溢血を再發した事は不思議でならぬ」

桐谷氏の容態險惡化

回復は至難

注射からの歸りの途中突然卒倒して多丸屋旅館に一時收容した桐谷元磐中校長は其後胡摩澤の自宅に運ばれたが容態益々險惡化し全く昏睡狀態に陷り僅かに食鹽注射に依つて脈を保つて居るのみにて到底回復は至難であらうと

◇　◇

不良食物が……いゝ結果を收む

平町、中野間で……通信鳩飛しやうの試驗

東京中野電信隊では平町、中野間に於て第二年目通信鳩に對し飛翔試驗をなし九月二十三日第一回の飛翔をなしたその方法に滋養食物を與へた鳩と不良食物を與へし

飼育鳩を混合して

飛ばしたのであるが、その結果不良食物を與へられた鳩が着時間も早く比較的元氣であるといふ成績をあげた、これは鳩が早く食物をもらひたい爲めに急いで飛ぶ關係であらうと云はれてゐるがこの試驗は

軍事通信上に於て

非常に參考になる成績で更に來る六七の兩日に第二回の飛翔試驗を同樣方法に依つて行ひ十一月十日から三週間第三回の試驗を行ふ豫定てあるそ

大震災で書類が紛失

鹿島神社再度の昇格を申請

石城郡神谷村鄕社立鉾鹿島神社は大正十一年中縣社に昇格の運動をおこし同年内務省に向つて昇格申請をなした處恰度大震災のため申請關係書類が不明となり今日まで何等の指示もないので同村では再び昇格運動をおこし同村出身の佐藤政友會支部幹事長にこれが斡旋方を依賴し縣の申請關係書類紛失の證明を貰ひ其筋に向つて實現の運動を續けることになつた

平町で優良農具實演

四百餘點出陳

平町元郡役所内に御大典記念園藝品共進會が開催されるが本縣主催第四回優良農具實演會も十一月二十四日から三日間同所に開催する事となり出品物も

▲第一類　耕種に關する農具

▲第二類　收穫調製貯藏用農具

▲第三類　副業用農具

▲第四類　農具動力機

の五種類約四百點と大体決定を見たので園藝共進會は更に大規模のものとなる譯である

家庭欄

栗の珍料理(上)

酢の物には栗の外皮をむいて灰の中で燒栗にしますが全部燒かずに使ふ栗の三分の一か四分の一は生のまゝで使ひます。然し生栗を使ふと消化が大分おくれますからホンの取合せのためです、燒いた栗も生のもしぶ皮をよくとつてせん切りにして兩方を混ぜ三杯酢をかけ別に大根おろしを作つてこれにも三杯酢をかけ、五六分間おいて栗と混ぜ合せ青のりか淺草のりをふりかけて食べるのです。きうりがある時ならば大根おろしの代りに使つてもよくその中にバナヽ、梨等の果實が入つてもまたいゝものです三杯酢をつくる時の心得としては砂糖、みりん、酢と鹽といふ順序で最後に醬油一滴位を落すと順序構はずに混ぜたのよりヅツと味がいゝのです

鑛山税を……地方に委讓せよ

全國にげきを飛ばして内鄕村長等が開始す

常磐地方農村は炭礦會社の被害を受け年々美田は荒野と化し今にして救濟せずんば前途憂ふべき結果を來すもの少からず憂慮されてゐるが加ふるに財界の影響を受け

炭礦界の不況により

同地方町村の疲弊振りは言語に絶し財源は殆ど行詰りを來し如何にして明年度の豫算を編成すべきかについて苦心中であるが今回礦山税の地方委讓によりこれを緩和すべく石城郡内鄕村長野木亀之助氏等を中心として全國の炭礦所在地町村長に激を飛ばし右税金の委讓運動を起すことになつてゐたが右野木村長は常磐地方町村長を代表し

九州方面の町村長

と共に上京政民兩派本部並に首相各關係省を訪問陳情するところあつたこれが實現の曉は全國鑛山關係町村には約三百餘萬圓石城郡下でも十數萬圓の財源が生ずる

平署管内酒仕込減少

不景氣が原因

平税務署管内に於ける昭和三年度酒造見込數は二萬八千四十八石で前年の二萬一千二百十五石に比較し四百七石の減少を示してゐるこれは地方財界が不況の結果で今年の殘額も八千七百二十五石で前年のこれに比較して一千石から減じてゐる殘り高の減少したのは酒造家が税金納入のために亂賣したことにも依るが一般に不景氣であることが原因してゐる爲めであらうと

雜巾千枚を寄附

窪田村の奇特な老婆

石城郡勿來町窪田小松春吉妻女モト(六五)は豫てより賢女の聞こえ高く意思强固且公事業に對する理解は男子を遙ぐ有樣に聞近の模範として賞揚されつゝあつたが老齡の身を雖も何か奉公の仕事せねばならぬと連日雜巾を造つてゐたが終に千枚に達したので高等小學校に八百枚關田第二小學校へ二百枚の寄附を行つたは奇特といふべきである

平署の留守に火防組合嚴戒

陸軍大演習にて聖上陛下中通り御通過につき平警察署員は大多數出動の爲め平町

募集

文藝其他投稿を募集します

各町火防組合にては火防と治安に就いて特に警戒を嚴にする事になつた